

# 石川・能登半島被災地を訪ねて

第4回支援ボランティア

(1面から)



訪問した輪島中学校では、輪島支部事務局長で元教員の倉田幸子さん(手前左から2人目)も同行し、生徒や先生と懇談(輪島)

昨年12月、新婦人は支援バス4台を走らせ、輪島市街地、輪島市門前町、珠洲市を訪ねました。被災地の会員たちの願いは「少しでもホッとできる時間を持つこと」と子どもたちに「クリスマスプレゼント」を渡したい」という2つ。その願いの実現へ……。石川、東京、埼玉、大阪、奈良など24人の会員が現地へ向かいました。

## 輪島 学校に「ミカンと図書」を贈呈

### 子どもたちに

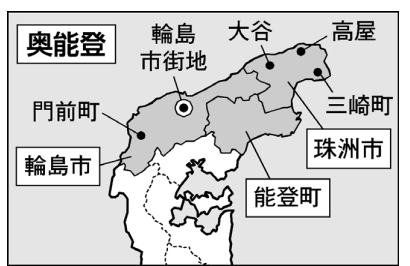
輪島市街地では最初に輪島中学校と河井小学校を訪ね。市内の高校にある輪島中学校は、昨年元日の地震で校庭に地割れがおきていたところへ、9月の記録的豪雨で土砂崩れが発生し、今も復旧作業がおこなわれています。築年数の浅い校舎もいたるところにひび

が入っています。子どもたちからリクエストがあった学校の図書館の本、農民連のミカン、クリスマスデザートを生徒会長と副会長に贈呈(左写真)。「プレゼントします！」と声をかけると笑顔がこぼれました。

### ホッとする時間

「ホッとした時間を持たたい」、輪島支部の会員の願いにこたえ、民医連・輪島診療所の交流サロン「輪茶」で美容師資格を持つボランティアが、ヘッドマッサージを実施しました。

河井小学校では市内6つの小学校の計397人が仮設のプレハブ校舎で学んでいます。



豪雨で崩れた跡が生々しく残る崖は仮設住宅のすぐ前で、樹木が電線に倒れかかったまま。雪解け時が心配との声も(珠洲市大谷)

一番盛り上がったのはメイクタイム(写真1面)。口紅やアイシヤドーもさまざまな色が用意され、「眉はどうやって描く?」「この色、使ったことな

い!」など笑顔があふれ、和気あいあい。別際には涙を浮かべる会員もいました。

### 300世帯分を

輪島市門前町では2つの小学校が門前中学校に「間借り」し、体育館にもひびが入ったままです。「子どもたちは不便な生活を余儀なくされている」と校長先生。本などの目録を手渡すと、「自宅の屋根に穴が開き、カビだらけに。でも、もっと大変な人もいますから」と。その後、300世帯555人が暮

## 珠洲 支援物資を渡しながら対話も

### いまでも続く断水

珠洲市に向かう道は、盛土でつくった道が豪雨で崩れ、激しいアップダウンが続きます。道路わきの木に壊れた車が引っかかり、つぶれたままの家もあちこちに残ります。海岸線から5きほど入っ

た山間の大谷第3地区(20世帯)は、豪雨被害で今も断水状態。集落のMさん(70代、女性)は「こんな目に遭うとは思わなかったけど、がんばるしかない」と話しました。

### 被災地に班を!

豪雨で延期になった学校グラウンドの仮設住宅の入居が始まり、「珠洲に新婦人の班を」の訴えで10月に入会したHさんと再会



仮設住宅に一人で住む80代の女性(左)は「住み慣れた地を離れたくないが、ここではすることがなくてさみしい」と。話ができたことを喜んで(珠洲市高屋)

し、「やっと入居できた」と喜び合いました。震災後、家族6人でビニールハウスに避難していた三崎町のHさん(30代)を訪ねると、「今は倉庫などを自力で改装して住めるようにしている」と。蛸島の仮設住宅で保育施設設置の運動にとりくんでいる若いTさんとも会え、これからもつながっていくことに。珠洲市に班結成の展望も見えてきました。

大谷小中学校のリクエストは、図書カードと卓球の球出しマシーンです。クリスマスのお菓子などと一緒に、子どもたちに手渡すことができました。

### 【救援募金送り先】

郵便振替00150-7-74582  
新日本婦人の会 ※「能登半島被災地救援募金」。会員、読者への救援は「救援基金」と明記を

## 全国のみなさんありがとう

輪島支部からお礼の手紙

被災してからもう一年が過ぎようとしています。みなさまの切れ目のない、温かいご支援に心より感謝申し上げます。輪島支部の仲間も励まし合いながらここまでできました。元旦の震災に続き、9月の豪雨災害と心が折れそうな一年でしたが、全国の新婦人とつながって前に進もうと思えます。新婦人輪島支部

## 母の歴史

聞き書き 宮崎県 上西祐子さんのお話 (1)



親子4人、上海で。父に抱かれる上西さん(1945年頃)

今回から、夫の転勤とともに県内を転居、延岡、宮崎、都城支部の活動に関わり、新婦人の礎を築いてきた上西祐子さんのお話です。知り合いのいない延岡で、友だちが欲しくて新婦人に入り、今年で57年目になります。いろいろな人たちと触れ合うなかで成長し、友だちもたくさん作ることができました。また、故郷・三股町で、62歳から4期16年、町議会議員として働き、病後児保育、町バスなど要求実現のためにがんばってこれたことは、私の自信になりました。私は1941年1月、日中戦争(中国への侵略戦争)の最中、中国の上海で生まれました。父は一等航海士で、日本軍の物資を運ぶ船に乗っていました。その頃の記憶は断片的ですが、4歳の頃に上海にも空襲があり、幼い私は防空壕に入るのを嫌がり駄々をこねたために、翌日母から叱られ、手にお灸を据えられたことを今でもよく覚えています。

## 戦中、上海で生まれる

終戦となり、日本に引き揚げることになりました。しかし父は仕事で日本に戻っており、敗戦のために上海には戻れない状況でした。母は私と弟を連れて戻らざるを得ず、心細い思いで引き揚げを準備し、翌1946年1月1日、ようやく船に乗り込みました。船が日本に到着する日の朝、甲板にいた誰かが「山が見えたぞ」と叫び出し、私も他の人々と甲板に走り出しました。その時に眺めた緑の山々は、今でも目に焼き付いています。